

宇宙の面白さを

リード芦屋新聞

発行元
芦屋市立あしや
市民活動センター
リードあしや
記事 寺本 空未



大塚進康さんのモバイル作り教室

大塚進康さん（81）は、日本宇宙少年団六甲分団の分団長として現役で活躍している。精道小学校ではペットボトルでロケットを作ったり、天体（満月、土星）観測をするイベント

を開催。幼稚園では宇宙飛行士の人の動画を流したりした。子供たちと関わるイベントに参加している。

私のイベントの案内は、必ず宇宙の好きな子どもがいる保護者に向けてつくるようにしています。その理由は、小学生以下の子どもは、保護者の理解がないとイベントに参加できないからです。

イベントに参加してくれる子どもは、だいたい保護者が宇宙が好きなことが多いです。しかし最近、子ども自身の興味も高くなっ

子供たちとの関わり

自由な発想力を作品に



てきていると感じています。大人も子どもと一緒に、宇宙の面白さを味わってほしいです。

リードあしやのイベントに2年ぶりに参加してみると、予想以上の参加者がいてびっくりしましたが、子どもにも興味を持ってもらえてうれしかったです。このイベントのモバイル作りでは、子どもが自由に色を塗ったりして、一人一人個性の溢れる作品をつくっていました。

きっかけは、中学校の時の担任の先生が理科の先生で、望遠鏡を使って月のクレーターや土星を見せてくれたことです。私は、この先生のおかげで今もこの活動ができています。2033年に宇宙に行くことや空飛ぶ車に乗ることを目標に、100歳まで生きたいと思っています。